

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K-12 一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。  
小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、4学年ごとに3つの活動区分『低学年』『中学年』『高学年』を設けています。  
「低学年」(1-4年)＝小学1～4年、「中学年」(5-8年)＝小学5年～中学2年、「高学年」(9-12年)＝中学3年～高校3年

玉川学園[幼小中高]

## 2016年度 玉川学園 学校評価 (学校関係者評価結果)

K-12 父母会役員からの意見聴取 (まとめ)

2016年度の学校関係者評価会議では、本学が積極的に進めている取組みの中から、特に「学習支援のあり方について今後期待すること」を中心に、保護者の視点からご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

### ■学習支援：「延長教育プログラム」とは

本学園の延長教育プログラム (【ES】 Extended school) は、正課の授業に対して、プラスアルファで実施する放課後の教育プログラムです。“SH (Study hall)” “講座”、それぞれから選択したり、組み合わせることができます。

SH：幼稚園では生活のスキルアップや自発的な遊びを通じた教育活動を“SH”として、低学年では低学年専任教員を中心としたスタッフによる自学自習のサポートを“SH”として設定しています。

講座：指導経験が豊富な専門講師による講座・レッスンを、放課後にキャンパス内で開講しています。稽古事やスポーツなどのスキルアップを図ることができます。

## 学習支援のあり方について今後期待すること

### ◆幼稚園

#### ES (SH・講座)

- ・SH・講座は、9時の登園からそのまま長く安心して子どもを預けることができ、ありがたい。
- ・SHは、ただのお預けではなく、保護者が予想していたよりも内容が非常に充実しており、「とてもよかった」「子どもも楽しんでいる」という報告が保護者から多数寄せられている。
- ・講座の受講を決める際に、体験期間を設けて欲しい。
- ・例えば、4月を体験期間とし、5月に講座を受講するかを決める仕組みにできないか。
- ・講座の参加希望者が増えているが、少人数制で実施したほうが子どもたち一人ひとりの体験時間が長く取れるため、講座毎に人数を制限したほうが良いのではないかと。

### ◆低学年

#### ESの目的・体制

- ・ESは、共働きなどの就労支援なのか、学力向上を目指すのか、最終的な目標が曖昧なのではないか。
- ・ESの実施にあたっては、先生方の負担を心配していたが、運用体制の説明を受け、大きな負担になっていないようで安心した。

#### ES (SH・講座)

- ・4年間継続して受講させたいため、毎年同じ講座を同じ曜日・時間帯に開講して欲しい。
- ・プログラムに、もっと遊び的な要素を取り入れてはどうか。
- ・SHは学習習慣を身に着けるための自学を基本としており、学習塾との役割の違いが明確になっていて、よいと思う。

#### ESの継続性

- ・保護者は、4年生から5年生に進級するにあたり、講座が継続して開講されるのかについて、非常に関心がある。

#### ◆中学年

##### ES (SH・講座)

- ・将来の活躍につながる種目、例えば野球を ES の講座で開講して欲しい。
- ・ES の講座で英語以外の言語についても学べる選択肢があったほうがよい。
- ・SH は、何でも相談ができる場であってもよいのではないか。
- ・過去は、先輩と後輩という関係から、社会に出た時の周りの人とのかかわり方を学んでいたが、SH のなかで先輩と後輩が交流できるような場を設けられないか。
- ・幼稚部から 12 年間、さらには大学までがつながっていることを活用してほしい。

#### ◆高学年

##### ES (SH・講座)

- ・ES は、共働きを支援することで入園者や入学者の確保に繋がることを目的として始まったと理解しているが、そこから少しずつプログラムの内容を充実させ、向上させて欲しい。

##### 課外授業

- ・高学年は、すでに生徒自らが放課後の時間を使ってクラブ活動や塾での学習をしているため、課外授業は必要ないという意見もある。
- ・課外授業として、外部講師を招聘して話を聞いてはどうか。
- ・金融や営業に関して学ぶ課外授業を開講して欲しい。
- ・高学年の生徒はクラブ活動や塾などで多忙であり、課外授業の支援よりも正課の授業内容の充実により一層力を入れてほしい。

### その他、学校への要望・期待

#### ◆幼稚部

- ・ES・SH が始まり、共働き世帯が増えて、父母会活動に参加する保護者と参加しない保護者が明確に分かれ、来年度以降もその傾向は強くなるのではないか。
- ・父母会活動の縮小も考えられるが、大きく縮小すると、幼稚園や子どもたちの普段の様子を見る機会が減ってしまう恐れがあるのではないか。
- ・今年度より外国人の先生が常に幼稚園にいて、子供たちも英語に親しみやすく、楽しんで学んでいる。
- ・年長の 1 学期の最後に低学年の見学や進学説明を受ける機会があるが、進学先（一般クラス・BLES クラス）を長期間検討できるよう、年少や年中の時からその機会を設けて欲しい。
- ・KEYAKI 食堂は、大学だけではなく、幼稚部の保育時間にも合わせて営業して欲しい。
- ・遠方から通う保護者もあり、玉川学園との天気には差があるため、チャットネット上などでリアルタイムに天気情報がわかるとありがたい。

#### ◆中学年

- ・自分の生活の組み立てができるように、ハンドブック・プランナーの活用をもっと促して欲しい。
- ・ハンドブック・プランナーについて生徒同士で情報交換ができる場を設け、相互に支援する時間を確保して欲しい。
- ・本学園の生徒としてのアイデンティティの確立や 12 の教育信条の 1 つである「全人教育」についての認識など、自校教育を強化して欲しい。

#### ◆高学年

- ・授業を受ける生徒の準備も大切だが、先生方も授業を楽しみ、学びと実社会及び先生方の体験が結び付けられた授業を展開してほしい。
- ・例えば歴史の授業では、先生ご自身の海外体験を紐づけて国の説明をすることや、数学では商売や会社経営と結び付けて実社会に近い形で教えることをして欲しい。
- ・生徒がもっと授業に興味を持てば、内容の濃い授業となり、それが最終的には生徒への支援につながる。